

通級だより

静岡聴覚特別支援学校

通級指導教室

2025年10月号 文責 芦澤



通級指導では、通級生一人一人の実態や状況に応じて、持っている聴力を最大限に活かすための聴能指導、聴力に応じたよりよい生活を実現していくための適応指導、言葉の力を育む言語指導等を行っています。今回は、難聴児の指導・支援に関するいくつかのトピックスを紹介します。御家庭や在籍校での指導や支援の参考にしていただければと思います。

セルフアドボカシー(必要な支援を伝える力)

セルフアドボカシーとは、適切な支援や配慮を受けるために、自分にとって必要な支援や配慮について自ら主張していくスキルです。このスキルを高めるためには、様々な場面や将来の生活を想定して、自分にとって困難なことや不便なこと、自分の強み等を理解したり、自分のことを周囲の人に伝えたりする経験を重ねながら、自己決定力を高めることが大切です。

本校の通級指導では、セルフアドボカシーを高めるために、自己理解や自己発信に関する学習を行っています。通級生の実態や学校での様子に応じて、様々な発信の機会を意図的に設けることがあります。大切なことは、知ってほしいことや配慮等お願いしたいことを一人で抱え込まずに、周りに相談したり伝えたりすることができる人になることです。また、段階的に発信の体験を重ね、「伝えてもいいんだ!」「自分で伝えられた!」「みんなが知ってくれて安心できた!」という肯定的な感覚を培うことが大切です。社会の中で合理的配慮を受ける際にも、セルフアドボカシーが大切な力になります。

(例)

難聴理解授業をやったら、みんなが自分のことを知ってくれた。授業の感想に「困ったら言ってね!」と書いてくれていて、安心できた。



授業をしてくれる先生のところにロジヤーの説明をしに行った。担任の先生も一緒に居てくれたけれど、ほとんど自分で説明できて、自信がついた!

合理的配慮

「合理的配慮」とは、障害のある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応することが求められるものです。「過重な負担」があるときでも、障害のある人に、なぜ「過重な負担」があるのか理由を説明し、別のやり方を提案することも含め、話し合い、理解を得るよう努めることが大切です。

(参考：内閣府(n.d.)[合理的配慮の提供 | 障害者の差別解消に向けた理解促進ポータルサイト](https://shougaisha-sabetukaishou.go.jp/goritekihairyo/) 2025年9月18日アクセス <https://shougaisha-sabetukaishou.go.jp/goritekihairyo/>)

配慮を求める側がその意思を適切に伝えること、意思表示を受けた側が対応可能な範囲を考え、相互的な対話を通して実際の対応を決定していくということが、不可欠です。

(例)

人工内耳の子は、何かあるといけなから、柔道の授業は参加できないと言われました。楽しみにしていたから残念です。



本人・保護者・関係する教員で話し合い、注意が必要な点を確認しました。取り組む技を選んで教師と一緒に言えば、実施可能と考えました。

※一方的な配慮は、気付かないうちに権利を奪ってしまう可能性もあります。配慮を受ける側も、必要な配慮を自分から伝えることが大切です。



リスニング・エフォート(聞くための努力)

聞き取りが難しいときに、聴覚だけではなく、様々な力を総動員させて話を理解しようとする努力のことを「リスニング・エフォート」と言います。健聴の人でも、不慣れな言語で話を聞き取らなくてはならないときに、全神経を集中させて一生懸命意味を考えながら聞き落としが無いように努めると思いますが、聞き取りにくさを抱える人は、普段からそのような努力をして話を聞き取っています。聞き取りを妨害する雑音があると、一層のエネルギーが必要になります。一定以上の努力が必要な場合、言葉を聞き取ることに集中しすぎて話の全体像を思い出すことができない・取り組むこと自体を諦めてしまうといった様子が見られるようになります。会話に支障がなく、よく聞き取れているように見える難聴児でも、このような努力やそれによる疲労があることを理解することが大切です。リスニング・エフォートや、それによる心身の疲労を軽減するために、以下のような工夫ができます。これらの工夫は、聴力に問題のないお子さんにとっても、集中力を維持したり意欲的に取り組んだりするために有効と言われています。

《できる工夫》

- ・雑音が少なく聞き取りやすい環境を作る。
- ・短くて分かりやすい指示や説明をする。
- ・特に集中して聞く必要がある場面では、何の話をするのか前置きをする。
- ・視覚的に情報を補って理解しやすくする。
- ・頑張らなくても聞ける時間、ぼーっとできる時間を作って脳や耳を休める。
- ・自覚のない疲労感・聞こえにくさに関する言い出しにくさがあることを理解し、聞くことへの過集中や諦めがないか、様子を見取り、心身の状態や聞こえ方について話を聞く。



傾聴態度の育成によってクラス全体の学力が向上したという例もあります。

頑張らない時間も大切です。



「気づいてくれる人が居る」という安心感があるだけでも疲労感が軽減されます。話を聞くことで、適切な支援や配慮につなげることもできます。



参考図書を紹介



『難聴児・生徒理解ハンドブック 通常級の学級で教える先生へ』 白井一夫・小網輝夫・佐藤弥生 編著

場面別の支援方法や指導について、イラストも交えながら具体的にまとめられており、この一冊を読むだけでも難聴児の理解が深まります。



『マンガでわかる子どもの困りごと攻略ブック できない・やめられないが多い子がわかる解決法』 モンズー 著 / 平岩幹男 監修・説明

お子さんが読んで、御家庭・学校の方が読んで参考になります。本校で貸出しができます。御希望の方は、指導担当にお声掛けください。